学校番号	３０４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	詳説日本史　日本史探究（山川出版社）						
副教材等	図説　日本史通覧（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

２年生から継続する日本史探究の学習をとおして、我が国の歴史について、単に歴史事項を羅列して覚えるのではなく、何故このような事が起こったのかという歴史的思考力を養ってほしいと思います。また、各時代の史資料の読み取りや、多くの歴史上の問いに対する自分の考えを表現できるようになってほしいと思います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
我が国の歴史の諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に理解する。諸資料から様々な情報を読み取り、まとめる技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
歴史の事象や歴史の構造に問題を見いだし、分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考することができる。また、それを表現することができる。
【学びに向かう力、人間性等】
歴史的事実や現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究する態度を身につける

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の歴史の諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に理解する。諸資料から様々な情報を読み取り、まとめる技能を身につけるようにする。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見いだし、分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりできる。また、それを表現することができる。	日本史探究の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究する態度を身につける努力をしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	近世・近代	・幕政の改革 ・宝暦・天明期の文化 ・幕府の衰退と近代への道 ・化政文化 ・開国と幕末の動乱 ・幕府の滅亡と新政府の発足 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立	a:幕府・諸藩の経済的窮乏、飢饉の発生と打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革、田沼時代の諸政策、寛政の改革の意義について理解している。 幕藩体制下の社会の変容や政治・経済と文化の関係に着目して、宝暦・天明期から化政期に形成された町人文化について理解している。 列強の接近にともなう諸事件や欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について、諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。 幕府の滅亡と明治政府による中央集権化の諸政策、さらには日本帝国憲法の成立に至る推移を、欧米・アジア諸地域との国際関係に留意して情報を読み取り理解している。 b: 商品作物の栽培や貨幣経済の浸透により、米作を基盤とする幕藩体制が動揺する過程を踏まえ、飢饉や一揆の発生が幕藩体制に与えた影響を考察し、表現している。 国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について、多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。 諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し表現している。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録・発表 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録・発表

			c:幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見いだし、主体的に追究しようとしている。 日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。 明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。 自由民権運動の展開過程を考察した上で、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。			
2学期	近代	・日清・日露戦争と国際関係 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 ・近代産業の発展 ・近代文化の発達 ・市民生活の変容と大衆文化 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦	a:日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張、第一次世界大戦がもたらした日本への影響などについて、諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。 産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について、適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。 日本で連続して発生した恐慌がもたらした政治・経済体制への影響と国際社会との関係に着目して、諸資料から情報を読み取り、満洲事変から日中戦争に至る過程について理解している。 戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録・発表 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録・発表

			b:日清戦争から日露戦争の中で、さらには第一次世界大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮、欧米諸国が日本の対外姿勢をどのように受け止めたかを多面的・多角的に考察し表現している。 地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し表現している。 ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。 中国との戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。 c:日清・日露戦争や第一次世界大戦がもたらした国内の政治的・経済的な変化や国際社会における日本の立場の変化を主体的に追求しようとしている。 産業の発展とそれによる社会問題への対応について課題を見いだし、自ら主体的に追究しようとしている。 東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。 日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。			

3学期	現代	・占領と改革 ・冷戦の開始と講和 ・55年体制 ・経済復興から高度経済成長へ ・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本社会の変容	a: 第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義について理解している。 保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について、諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。 ドル危機や石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。 b:戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し表現している。 日ソ共同宣言と国際連合への加盟、新安保条約・日韓基本条約・沖縄の返還、日中共同宣言などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している 日本の経済復興や高度経済成長、さらには石油危機後の経済大国化について、国際関係と関連付けて、多面的・多角的に考察して、その結果を表現している。 国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 c:連合国による日本の占領統治の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録・発表 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録、発表

			題を追究しようとしている。 55年体制の歴史的意義や、1960年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見いだそうとしている。 高度経済成長や経済大国化がもたらした国内的・国際的な日本の変化について、課題を主体的に追求しようとしている。 第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な役割や取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度